

# 人権さんだ

2 月号

令和7年(2025)

No.551

アンコンシャスバイアスって何？

《問い合わせ》  
健康福祉部 人権共生推進課  
TEL: 559-5148 FAX: 563-7776  
E-mail: jinken\_u@city.sanda.lg.jp

講演＋落語

## アンコンシャスバイアス って何？

～落語で気がつく無意識の思い込み～

かつら さんしろう

講師 桂 三四郎 さん  
(落語家)



▲ 桂 三四郎さんによる講演と落語 (写真は合成)



今号では、講演と落語をふり返りながら、アンコンシャスバイアスについて考えてみましょう。また3頁には、「人権と共生社会を考える市民のつどい」で発表された中学生の人権作文を掲載しています。

昨年12月7日に三田市総合文化センター(郷の音ホール)にて、「人権と共生社会を考える市民のつどい」を開催しました。当日のプログラムでは、落語家 桂三四郎さんに、「アンコンシャスバイアスって何？」落語で気がつく無意識の思い込み」と題して、講演と落語を披露していただきました。

令和6年度「人権と共生社会を考える市民のつどい」より

アンコンシャス  
バイアスって何？  
落語で気がつく無意識の思い込み

UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。

講演では、「よく笑うことで自分自身が健康になり、心に余裕を持つことで、他人に対しても寛容で優しい対応ができ、人権の尊重につながる」というお話がありました。とても軽妙な話術で多くの人が笑いながら楽しく人権について学ぶことができました。

また落語では、高齢者の男性が仕事帰りに立ち寄った酒場で、居合わせた女性客や迎えに来た息子と交わす会話から、私たちが日常で考えがちな「アンコンシャスバイアス（無意識の思い込み）」がたくさん出てきました。自分もそういう「思い込み」がないか、参加者それぞれが考える機会となったのではないのでしょうか。みなさんも次のような考えに、心当たりがないでしょうか。



### アンコンシャスバイアス（無意識の思い込み）の例

- ・男性は仕事をして家計を支えるべき
- ・家事・育児は女性がするべき
- ・外国人は日本語がうまくない
- ・高齢者はスマホが苦手

このように、私たちは人と接する時に、性別・出身国・年齢など、相手の属性によって、無意識に「この人はこういう人だ」と思い込むことがあります。これを、アンコンシャスバイアスと言います。自分自身では意識しづらく、それをなくすことは難しいのですが、そういう「思い込み」が自分にもあると考え、それが偏見や差別につながるのではないように意識することが大切です。

アンコンシャスバイアスに関する有名な事例に、アメリカのオーケストラにおける「ブラインド・オーディション」があります。

1970年代のアメリカのオーケストラで採用される女性の比率は約5〜10%でした。ところが、採用オーディションの時に審査員と応募者の間にスクリーンを置き、審査員から応募者の性別が分から

ないようにして演奏を聴くようにしたところ、女性の採用者が増えたという事です。それまでは「男性の方が優れている」という先入観に影響を受けていたものが、「ブラインド・オーディション」では応募者を見ることができなくなり、演奏そのものの優劣で判断されるようになり、これまで少なかった女性の採用が増えることになったと考えられています。



アンコンシャスバイアスには性別以外にも、職業・学歴・障害の有無・外見・居住地・血液型などさまざまなものがあります。それらの「思い込み」にとらわれて、相手のことをきちんと知らないままに決めつけてしまうと、相手を

傷つけ差別することにもつながります。そのような偏見は個人の問題にとどまらず、オーケストラの事例にみられるように、性差によって不平等が発生し、社会的な問題になることもあるのです。

私たちそれぞれが、自分自身の中にアンコンシャスバイアスがあることを意識したうえで、相手の人権を尊重し、多様性を認め合うようにすることが、誰もが自分らしく生きることが出来る共生社会をつくるための第一歩となるのではないのでしょうか。



「人権と共生社会を考える市民のつどい」のようす

# 「白、黒、黄」

八景中学校 3年  
大塚 乃聖さん

僕は小学校五年生の時、人色で分けるスラングがあることを知りました。「White」は白人。「Black」は黒人。「Yellow」は黄色人種を表すそうです。そのスラングを知ったきっかけは僕が五年生から所属しているバスケットボールのクラブチームでした。チームには色々な地域から通っている子がいます。兵庫県だけではなく大阪市などからも来ています。そして日本人だけでなく、アメリカ、ニュージーランド、中国などの外国人の子供達もたくさん所属しています。初めてチーム練習に参加した日、僕は緊張しながら自己紹介をしました。新しい環境、新しいチームメイトとの初顔合わせというのもあったけど、今まで身近に関わる事なかった外国人の子供達とコミュニケーションが取れるか心配でした。練習が始まり、少しずつチーム練習の感じが

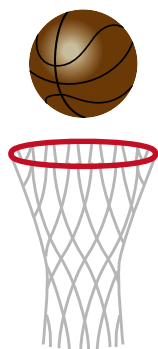
分かって来た時に、二人ペアで行う練習が始まりました。最初にペアになったのは日本人の子だったので、色々話をしながら練習が出来ていたけど、次にペアになった子はアフリカ系アメリカ人の黒人の子でした。その子は僕より一つ年下でしたが背が僕より二十センチ以上高く、体格もとても大きい子でした。僕は大柄の外国人とペアになったことで完全に萎縮してしまい話しかけることも目を見ることも出来ませんでした。その後何度かペアを組みましたが、声をかける事は出来ないまま練習が終わりました。片付けが終わって僕が帰ろうとしていると、「Hey man! Don't you talk because [in black] と、さっきの黒人の子が僕の肩を掴みながら怒るように声をかけてきました。英語がわからない僕は練習の時以上に萎縮している、その子は日本語で話したくないの？」急に日本語で話されたことで少し緊張がほぐれた僕は正直な気持ちを素直に話しました。初めての練習で緊張してい

たこと、体格の大きい外国人の子たちに圧倒されていたこと、そして早くみんなと仲良くなりたいこと。するとその子は笑顔になって日本語でたくさんのお話をしてくれました。チームのことや自分の生い立ちなど。そしてさっき言った英語の意味などを教えてくれました。自分たち黒人は「Black」と呼ばれることがあること。白人は「White」日本人やアジア人は「Yellow」と呼ばれることがあること。そしてそれは全部相手の気持ちを傷付ける汚い言葉、スラングだという事も教えてくれました。その出来事以来、他の外国人のチームメイトとも積極的にコミュニケーションを取れるようになったことで、より一層バスケットボールに取り組めるようになりました。今ではみんながハンドシェイクをしながら「Hey bro!」や兄弟！「が僕たちの挨拶です。生まれた地域、国が違えば考え方や習慣が違うのは当たり前のことです。身長が高い人低い人、体格の大きい人小さい人、言葉の違い肌の色の違い、みんなが同じ必要なんでな

いと思います。それぞれの違いを認め合い、色々な個性があるから良いのだと思います。

キングオブポップと呼ばれる世界的アーティストは想いを歌詞に込めました。「黒とか白とか関係ないよ」世界一有名な牧師は夢を語るスピーチでこう言いました。「黒人の少年少女が白人の少年少女を兄弟姉妹として手をつなげるようになるという夢がある」

僕にも夢があります。人種や国をこえた出会い、自分を成長させてくれたバスケットボールを通して関わるすべての人に感謝を伝え、そして幸せの輪を世界に広げることです！みなさんにも夢はありますか？



## 人権さんだアンケート

ご感想や今後取り上げてほしいテーマをお寄せください。



令和6年度 じゅしやう  
ラブピース4コマまんが受賞作品  
「私達の心の中にあるもの」



三田小学校6年  
四橋 杏葉 さん

人間関係を悪化させ、多様性の推進を阻害するアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見、思い込み）。多様性が進まず、ハラズメントが減らないのは、アンコンシャス・バイアスが原因かもしれません。

アンコンシャス・バイアスという言葉を存じでしょうか。「無意識の偏見」「無意識の思い込み」と



アンコンシャス・バイアスをなくそう  
無意識の偏見のない誰もが安心して働ける職場をめざして

視聴覚教材 貸出  
こちらからお申込みください



三田市人権共生推進課  
TEL:559-5148  
FAX:563-7776

（株式会社 自己啓発協会 映像事業部）

ご紹介いたします。

いって、性別など人の属性に関して自分では気づかないうちにとつてしまふ、偏った考え方やものの見方のことを指します。アンコンシャス・バイアスは、社会心理学の分野で研究が進み、多様性推進やハラズメント防止に欠かせないキーワードとして、社員研修でも注目されています。このビデオでは、なぜ私たちは知らず知らずのうちに偏見や思い込みをもつてしまふのか、職場でアンコンシャス・バイアスを取り除くためにできることはなにか。そのポイントをご紹介します。

令和6年度  
市民企画講座  
のお知らせ

【テーマ】「部落問題から学ぶ ～自分自身のよりよい生き方がし」

みんな、この世の中に幸せになるために生まれてきました。しかし、不合理や偏見、差別のある社会は、誰にとっても不幸であり、たいへん生きづらい社会となっています。長年の教職や行政経験の中で体験した部落差別の現実や同和教育の実践を通して、差別の本質について考え、自分自身をも不幸にする差別性や人間の弱さを確かめ合います。そして人間らしいよりよい生き方について、いっしょに考え合ってみませんか。

【日時】2月14日（金） 19時～20時30分（受付18時30分～）

【場所】フラワータウン市民センター（視聴覚室）

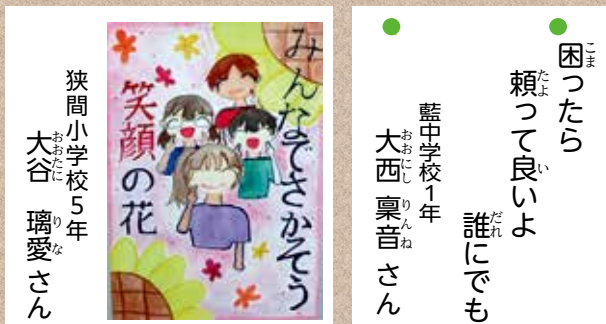
【講師】岡崎 正文さん

（問い合わせ先） 主催 狭間地区人権啓発講座実行委員会

協賛 三田市人権を考える会狭間小学校区地域部会（事務局 狭間小学校 562-2145）

入場無料  
予約不要

令和6年度  
人権ポスター・標語受賞作品



くらしの人権相談

TEL 559-5062 FAX 559-5063  
月曜～金曜 9時～17時（※祝日・年末年始を除く）

専門相談員による性的マイノリティ特設電話相談（予約）

TEL 559-5062 FAX 559-5063  
月曜～金曜 9時～17時（※祝日・年末年始を除く）  
※専門相談員との相談日は予約後に調整

人権擁護委員による定例人権相談（予約）

TEL 559-5148 FAX 563-7776  
《次回相談日》2月27日（木）13時～16時